第 2013-37 号

恵みと真理のニュース

2013 年 11 月の一次　恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養 5 洞 458-5 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］　神様は私の重い病気を治療してくださり、愛し仕える新たな人生で生きるように導いてくださいました。

私の全ての家族はイエス様を信じなかったです。しかし、私は他の宗教を信じたり占いをみる事が嫌いでした。たとえ、私は教会には通わなかったですが子供達には通わせました。子供達は教会学校で信仰教育を受け正しく育ちました。
私達が働いた店をたたんで生活が大変な時ある日、長男が私に言いました。“お母さん、悩んでいる顔です。お母さんも私達と一緒に教会に通いましょう。本当にいいですよ。今がお母さんが教会に行くときです。教会に通いながら礼儀正しく健康に育った子供達を見ながら教会に対して好感を持っていたし子供達がせめていて私も子供達について私も教会に行くようになりました。当時アンサンに引越しの計画も持っていたので教会では登録しなくて礼拝だけ参加しアンサンに引越しをしてから通う教会を捜すなかで恵みと真理教会の首区域長に出会いました。区域長の導きで恵みと真理教会の聖徒になりました。首区域長は私より歳は若いでしたがまだ初信者である私をまるで妹のような小さい子供を見守るように毎度愛と親切で私をケアーしてくれました。
首区域長が区域礼拝するたびによく聖霊に対する事を言いました。それで私はイエス様を信じてまもなかったですが誰よりももっと聖霊の恵みを愛しました。熱心ある他の聖徒のように聖霊に満たされ礼拝を捧げるたびに主に会う神霊な喜びも味わいまた主の事にも力を入れる楽しむ事も味わいたくて神様に切に祈りました。
そしてその年に最後の日の礼拝の時（ 旧年送り新年を迎むかえる礼拝）御言葉の大きい恵みと聖霊洗礼を受けました。とても嬉しくて感謝でした。息子にこの事を自慢すると息子は“神様がお母さんの堅固な信仰を持って頑張って神様を捧げるため御言葉と聖霊の権能を授けてしるしをくださったのです。” と言いました。息子はいつも私に信仰生活の心強い後援者になってくれました。この後私は神様を完全に畏れ愛する事に力を入れる生活をしながら日々が楽しくて幸せでした。　安定した生活のためアンサン農産物市場で八百屋を始めました。取引先がなく作った店だったので最初は前が見えなくて全ての面で大変でした。よく出来る店がとても羨ましかったです。ただ神様の助けを願い祈りながら商売しました。
首区域長と区域の聖徒が共に私の店のため期間を決めて祈ってくれました。祈りが終わる日聖書の御言葉を黙想するうちに大きい慰めと励ます御言葉が思い出しました。
だから、『何を食べようか』『何を飲もうか』『何を着ようか』と言って、思い悩むな。 それはみな、異邦人が切に求めているものだ。あなたがたの天の父は、これらのものがみなあなたがたに必要なことをご存じである。 何よりもまず、神の国と神の義を求めなさい。そうすれば、これらのものはみな加えて与えられる。 だから、明日のことまで思い悩むな。明日のことは明日自らが思い悩む。その日の苦労は、その日だけで十分である。」（マタイ６：３１～３４）
〝 あなたの業を主にゆだねれば／計らうことは固く立つ。（箴言１６：３）〟
約束の御言葉通りに神様に委ね商売することで礼拝と主の事をおろそかにする事ないように気をつけながら店を通してこれから物質でも神様にたくさん捧げ献身する事を願いながら最善をつくしました。以前よりもっと礼拝をささげ切に祈りました。すると神様が助け人を与えてくださり取引先が日々増えるように導いてくださりようやく店が安定しよくなりました。神様は私と共にいてくださり祝福を与えて下さることが肌に感じました。
どころがそのように取引先が増え商売が良くなりましたが、今は体が疲れて肉体的にも力に余り始めました。そして、ある日今までなかった私の乳房に塊が手に触れました。産婦人科に行って乳房癌と子宮癌検査を受けました。医者は乳房癌が疑われるから大学病院に行って再び精密検査を受けてみてくださいと言いました。大学病院に行って様々な検査を受けその結果を見に行った日、教授の診療室の前に座って待っているとき壁にいろんな癌の状態が書いてあった絵が張ってあり私の乳房の模様と同じ絵の下に乳房癌だと書いてありました。先まで私の心ではまさか私が？癌ではないと！思いましたがその絵を見たら怖くなりました。しかし、すぐ私の心の平定を捜しました。
“恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。（イザヤ４１：１０）”
御言葉をもって“そう、まさか私がこんなに重い病気にかかっても神様が私をほっといてくれないはず。私がこれから始めて真実に主を愛し主のために生きようとしたのに”そのように神様を信頼すると信仰の大胆さと勇気が出ました。その間この恵みと真理のニュースで病気を治された聖徒の多くの体験と証も思い出しこの事にも私に大きい慰めになりました。
ｎ息子が神経外科のインターンで勤務していたソウルの大きい総合病院で入院して手術を受けました。当時手術は比較的によくできましたがその後問題ができました。
乳房とリンパ線を全部切除した脇のところに水ができその水が乾かなかったです。普通の患者は手術後３週に水が乾くのに私は１年近く水が出て注射器でその水を抜けて袋を持っていなければなりませんでした。私はこれから一生この袋を持って生きなければならないのかと思いました。
退院して通院治療を受けていたある日の夜、教会の月曜日の祈り会に参加して神癒と祝福の祈りの時間に“神様、私がこれから一生こんな体でいきるのですか？私を哀れんでくださり恵みを与えてください。神様の奇跡的に私を治療してください。涙を流しながら祈りました。祈りするうちに“あなた心配ない。あなた、心配ない。”と主の声が続けて聞こえてきました。そして当会長牧師の神癒の祈りをする時にどんな時よりも切ない希望と確信を持って牧師の祝福に“アーメンと答えました。礼拝を終えて教会を出て驚くことは私も歩きが軽く感じました。続けてアンサンからソウルの病院まで地下鉄で何時間を通っても以前と違って私を治療してくださる全能の神様を考えながら楽しい心で通いました。その後まもなく水が止まって急速に回復されました。そして、ついに神様が私の全て癌の細胞が死んできれいになくなるようにしてくださいました。ハレルヤ！
その後区域長の職分を受け、去年は身に余る勧士の職分まで受けました。私が真心で忠誠な心で主と教会を仕え主の愛と哀れみの心で祈り不信仰者達を主の所に導くことに力を入れ主の前で立つ時に賞賛と賞級を受けるため私を助けてくださり職分までくださって新たに献身する機会を下さった事だと信じます。神様の恵みと私の本分と使命をいつも忘れなく私の新しい人生を主に捧げる事を念を押し神様に全ての栄光を捧げます。今日も生きていらっしゃり真実に信じ疑わない者に驚くべきな愛と権のを見せてくださる神様を声高く賛美します。

［信仰コラム］　試験（しけん）を有益（ゆうえき）が原（げん）

〝あなたがたの会った試錬で、世の常でないものはない。神は真実である。あなたがたを耐えられないような試錬に会わせることはないばかりか、試錬と同時に、それに耐えられるように、のがれる道も備えて下さるのである。…〟（コリントの信徒への手紙一10:13）

試験（しけん）を克服（こくふく）することは信仰（しんこう）生活（せいかつ）の必須（ひっす）要件（ようけん）です。信仰（しんこう）生活（せいかつ）で使用（しよう）する試験（しけん）という用語（ようご）は、信仰（しんこう）の状態（じょうたい）を点検（てんけん）してみるという意味（いみ）があります。そして神（かみ）様（さま）に向（む）かって不信（ふしん）感（かん）を抱（いだ）いて不順（ふじゅん）従（じゅ）するようにしたり、信仰（しんこう）生活（せいかつ）に悪（わる）い影響（えいきょう）を及（およ）ぼすことにすることを意味（いみ）しています.試験（しけん）はどこからきてどのようにすれば、その試験（しけん）を有益（ゆうえき）がなるかについて見（み）てみます。
第（だい）一（いち）、悪魔（あくま）からの試験（しけん）があります。聖書（せいしょ）に悪魔（あくま）を'試験（しけん）する者（しゃ）'と指（さ）しました。悪魔（あくま）は人（ひと）が神（かみ）様（さま）に逆（さか）らうようにして正常の信仰（しんこう）生活（せいかつ）から抜（ぬ）け出（だ）すという意図（いと）で試験（しけん）します。創世（そうせい）記（き）3 章（しょう）に記録（きろく）された蛇（へび）がハワを迷惑（めいわく）する事件（じけん）は試験（しけん）する者（もの）、悪魔（あくま）が聖（せい）徒（と）たちにどうアプローチを試（こころ）みて誘惑（ゆうわく）し、試験（しけん）に落（お）としているかを明確（めいかく）に示（しめ）してくれます。サタンは、イエス様（さま）も試（ため）しました。まるでイエス様（さま）を向（む）けて助言（じょげん）するように言（い）ったが、サタンの意図（いと）はいつも弱（よわ）ます。正体（しょうたい）と本質（ほんしつ）が邪悪（じゃあく）な者（もの）がもし善良（ぜんりょう）な事（こと）をするとしても警戒（けいかい）を緩（ゆる）めてはならないです。聖書（せいしょ）を引用（いんよう）する意図（いと）が不純（ふじゅん）な者（もの）がいるということを知（し）って分別（ぶんべつ）しなければなりません。イエス様（さま）は悪魔（あくま）の試験（しけん）を退（しりぞ）けて勝（か）つ道（みち）に関（かん）して母（はは）本（ほん）を見（み）せてくれました。
第（だい）二（に）に、神（かみ）様（さま）から来（き）ている試験（しけん）があります。神（かみ）様（さま）はいつも善良（ぜんりょう）な意図（いと）で試験（しけん）します.信頼（しんらい）を強固（きょうこ）にしたくて試験（しけん）しています。あるいは、純然（じゅんぜん）たる信頼（しんらい）を持（も）ったことを如実（にょじつ）に示（しめ）して福（ふく）をあげようと試験（しけん）しています.神（かみ）様（さま）が'読者（どくしゃ）のイサクをはんさいにしなさい〟した際（さい）に意外（いがい）にもアブラハムは神（かみ）様（さま）にどのような返答（へんとう）もしない神（かみ）様（さま）の命令（めいれい）を遂行（すいこう）するのに遅滞（ちたい）しませんでした。アブラハムは神（かみ）様（さま）の約束（やくそく）に対（たい）する彼（かれ）の信頼（しんらい）と神（かみ）様（さま）の命令（めいれい）に対（たい）する彼（かれ）の純（じゅん）宗（しゅう）がどうかを試験（しけん）を通（つう）じて立証（りっしょう）しました。それによって神（かみ）様（さま）がアブラハムに福（ふく）を与（あた）えました。　第（だい）三（さん）に、人（ひと）から来（く）るの試験（しけん）があります。人（ひと）を見（み）て維持（いじ）する信仰（しんこう）を持（も）った人（ひと）は人（ひと）のせいで試験（しけん）を受（う）けるとその信仰（しんこう）が崩（くず）れることになります。神（かみ）様（さま）に向（む）かって水（みず）の上（うえ）に歩（ある）いていたペトロが、イエス様（さま）を眺（なが）めていた視線（しせん）を向（む）けて山（やま）のように襲（おそ）ってくる波風（なみかぜ）を見（み）た瞬間（しゅんかん）、恐怖（きょうふ）と疑念（ぎねん）が彼（かれ）の心（こころ）になみなみとなると同時（どうじ）に水（みず）におぼれて入（はい）ったです。神（かみ）様（さま）より人（ひと）を眺（なが）めて、イエスの言葉（ことば）よりも、環境（かんきょう）と人（ひと）の言葉（ことば）にもっと集中（しゅうちゅう）するようになると試験（しけん）に陥（おちい）りものです。誰（だれ）のために試験（しけん）したという人（ひと）は実（じつ）は自分（じぶん）にも原因（げんいん）があるということを知（し）らなければなりません。
第（だい）四（よん）に、欠乏（けつぼう）と苦痛（くつう）と力（ちから）に余（あま）る問題（もんだい）から来（く）るの試験（しけん）があります。このような試験（しけん）を克服（こくふく）する最善（さいぜん）の策（さく）は凡（ぼん）事（こと）に感謝（かんしゃ）することです。凡事（ぼんじ）に感謝（かんしゃ）するための賢明（けんめい）な方法（ほうほう）があります。恨（うら）みと文句（もんく）の要因（よういん）を探（さが）して適切（てきせつ）な措置（そち）をしなければなりません。欲（よく）を捨（す）てなければなりません。することが原（げん）隊（たい）にならないことを恨（うら）み不平（ふへい）の要因（よういん）になって仕事（しごと）が期待（きたい）どおりにならないとき〟原隊（げんたい）になることが必（かなら）ずしも良（よ）い結末（けつまつ）をもたらすことはない。失敗（しっぱい）を通（つう）じても得（え）ることが多（おお）い。〟と考（かんが）えて下（くだ）さい。他（ほか）の人（ひと）と比較（ひかく）する癖（くせ）を果断（かだん）に処断（しょだん）して神（かみ）様（さま）と自分（じぶん）の関係（かんけい）の中（なか）で生（い）き方（かた）を習（なら）ってください。変（か）えさせる問題（もんだい）は神（かみ）様（さま）が自分（じぶん）に解決（かいけつ）してみと任（まか）せた任務（にんむ）と知（し）って興味（きょうみ）を持（も）って解決（かいけつ）策（さく）を模索（もさく）するようにしてください。変化（へんか）させることができない問題（もんだい）は使徒（しと）パウロが肉体（にくたい）のとげを容認（ようにん）したように容認（ようにん）する決断（けつだん）を下（くだ）して彼（かれ）によって謙遜（けんそん）しようになって神（かみ）様（さま）の能力（のうりょく）に深（ふか）く依存（いぞん）しながら生（い）きて行（い）ってください。イスラエル子孫（しそん）が神（かみ）様（さま）に捨（す）てられて滅亡（めつぼう）したのは彼（かれ）らが広野（ひろの）で当面（とうめん）の問題（もんだい）とカナン人種（じんしゅ）問題（もんだい）によるものではありません。感謝（かんしゃ）の欠乏（けつぼう）のためでした。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

私のようになるのを願います

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

謙遜に行いなさいという言葉が聖書にたくさん記録されています．聖書を通じて謙遜の意味をよく見れば自分がどんな人なのかを分かってそこに適当に行うことが謙遜です．もうちょっと具体的に説明しようとすると人は自分が滅亡受ける罪人というのが分かって罪人を救援するイエスキリストを信じて迎接するのが謙遜です．そしてイエスキリストを信じる人はクリスチャンとして適当なふさわしい事をするのが謙遜です．“私は不足で弱いです．神様の面倒と助けなしには真の勝利と成功と幸せに暮らす事ができないです。しかしもし聖徒なのに “私はしがない人生だ.” “私は幸せを享受する資格がない.” “私は劣等だ.” と思って言ったらこんな態度は神様が嬉しくできなくて神様の光栄をふさぐようになります．クリスチャンは神様の前で心を低めて留守にしなければなりません．しかし世の中を対しては神神しい自負心と矜持を持って堂堂と行わなければなりません．今日は本文の言葉で使徒パウロの言行をよく見て模範をしようとします．

大祭司長と長老たちが総督に使徒パウロを告訴しました．裁判が開かれたが総督は判決をしなかったです．それから 2 年の間パウロは未決状態に拘留されました．フェリックス総督が解任されてフェストが赴任するとユダヤ人たちがまた送辞したが相変らず判決が出ないでパウロはローマ皇帝の前で裁判を受けると上訴しました．フェスト総督は難関に逢着しました．ローマ法にもしどんな人が皇帝に上訴すれば上訴した人と一緒にその事件内容が詳らかに記録された文書を送らなければなりません．ところでフェスト総督が見たら宗教的な問題で争いがあるだけなので確かな罪目を決めることができなかったです．数日後アグリッパ王とベルニケが新たに赴任した総督フェストに公式あいさつのため訪問しました．総督がアグリッパ王にパウロの上訴件に関する話をしたらアグリッパ王が関心を見せて “自分もその人の言葉を聞きたい.” 告げました．それで劇的な場面が展開されます．明くる日アグリッパ王とベルニケが威厳を取り揃えて天卒長とその地域有力人士と一緒に審問場所に入って来たらフェスト総督が言い付けてパウロを引っ張り出しました．アグリッパ王がパウロに “あばた自分に対して言うのを承諾する.” と言いました．使徒パウロは自分がどのようにしてイエス様を信じるようになったのか言いながら自分の仕事はキリストが苦難を受けて死んだ者の中で復活した初めの人になってイスラエル民と異邦人たちに光を宣布するだろうと言うことを証拠することだと言いました．

“パウロがこのように弁明をしていると、フェストは大声で言った、

「パウロよ、おまえは気が狂っている。博学が、おまえを狂わせている」。

パウロが言った、「フェスト閣下よ、わたしは気が狂ってはいません。わたしは、まじめな真実の言葉を語っているだけです。

王はこれらのことをよく知っておられるので、王に対しても、率直に申し上げているのです。それは、片すみで行われたのではないのですから、一つとして、王が見のがされたことはないと信じます。アグリッパ王よ、あなたは預言者を信じますか。信じておられると思います」。アグリッパがパウロに言った、「おまえは少し説いただけで、わたしをクリスチャンにしようとしている」。パウロが言った、「説くことが少しであろうと、多くであろうと、わたしが神に祈るのは、ただあなただけでなく、きょう、わたしの言葉を聞いた人もみな、わたしのようになって下さることです。このような鎖は別ですが」。”使徒行伝，26 ：２４～２９）法廷はパウロの福音傳導の場所になりました．パウロのお話は単純で明確で要点を突く言葉でした．フェスト総督と使徒パウロがそれぞれ言った言葉を総合して見れば世の中には二つの種類の人々がいます．まことらしくて気を付けた人々がいて虚荒されて気が抜ける人々がいます．フェスト総督は世の中の人を代表して使徒パウロはクリスチャンを代表しています．世の中の人々はクリスチャンを自分の精神を持つことができなかった人で思います．一方にクリスチャンは自分がまことらしくて気を付けた考えとものを言う人になったことを嬉しく思います．クリスチャンと非キリスト人は完全に違う神観，宇宙観，歴史観，価値観，生死観と来世観を持っています．

神観が違います．クリスチャンは聖書に啓示された神様だけが本当に神様と信じます．非キリスト人は偶像を崇拝します．人間が思い出したあらゆる雑多な神々を仕える人々がいます．宇宙と自然を神さまで崇拝する人々がいます．どんな人を神格化して崇拝する人々がいます．無神論者があります．宇宙観が違います．クリスチャンは創造主の神様が天地万物を作ったことを確信します．**“はじめに神は天と地とを創造された”**と啓示された創世記 1 章 1 節の言葉をそのまま信じます．非キリスト人は宇宙万物が存在するようになったことを長年の歳月と偶然の結果と信じて主張します．進化論では数十億年の長い歳月が経つ間偶然に，生命がない無機物からアメ_バのような単細胞ができたし長年の歳月が経ちながらずっと進化して人間にまで発展して来たと主張します．

罪に対する観念が違います．非キリスト人は罪というのは実在しないので無視して忘れなさいと言います．罪があると言っても苦行や善良な行為として返すことができると言います．一方にクリスチャンはすべての罪がイエスキリストのあがないだけで解決されることが分かってあがないの恵みを信じます．歴史観が違います．非キリスト人は歴史は人間によって作られると言います．歴史は目的なしに進行されると思います．一方にクリスチャンは歴史は神様の計画で攝理によって進行されると思っています．人類歴史は決まった終末があり神様の決めた目的を向けて進むと信じます．

人間の生と死に対する観念が違います．非キリスト人たちは確固な生の意味と目的がないです．彼らは死に関して何種類の違い見解たちを持っています．存在が消えると思います．生まれ変わると思います．鬼になると思います．どこか分からないが他の世の中に行くと漠然と思います．一方にクリスチャンは生の目的と意味を確かに分かりました．神様に光栄を帰して，神様を嬉しくするために暮します．死は天国に行く関門だと分かります．死は肉体と魂の分離で魂は天使たちの引導を受けて神様である父の家である天国に入って，肉体は時になれば復活して栄え栄えしい身を着るようになることを信じます．

クリスチャンと非キリスト人はこのように神観，宇宙観，歴史観，人生観，死生観，来世観などに著しく違い見解を持っています．イエスキリストを信じなくては彼が世の中の学問を通じて権力と富貴を享受するとしても虚荒されて気が抜ける生から脱することができないです．イエスキリストを信じなくて，聖書に啓示された真理が分からなければ人生がどこから来てどうして住んでどこに行くかを分からないから精神なしに生きて行く人生です．クリスチャンになれば神観，宇宙観，歴史観，人生観，生死観，来世観においてまことらしくて気を付けた考えを言いながら暮すようになります．

“私のようになるのを願います.” と宣布したメッセージには私のように福音の証人になるように願うという意味が内包されています．崇高で価値のある事の中で除くことができないことが福音を伝える事です．神様を遠く離れた人生たちに福音を伝える事がいくら珍しくて恵まれた事なのかを教えるためにキリストが三種類の比喩を聞かせました．失った羊を尋ねた牧者，失った銭を捜した女人そして悔い改めて帰って来た息子を迎える父に対する話です．各各比喩の済ます言葉がこのようです．

“よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。（ルカによる福音書 15:7)，“よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、神の御使たちの前でよろこびがあるであろう」。（ルカによる福音書 15:10)，“しかし、このあなたの弟は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つかったのだから、喜び祝うのはあたりまえである』」。（ルカによる福音書 15:32)．

福音を伝える事は 聖徒の皆に与えられた事です．教会を通じる組織的で体系的な傳導のために財物と才能と時間を差し上げて参加することができます．そして社会の各分野で活動しながら多様な方法で福音を伝えることができます．神様が授けられた地位，権勢，物質，健康，才能を福音傳導のために使わなかったら結局彼がたくさん持ったことは誇りではないです恥ずかしいになってしまうでしょう．

クリスチャンは神神しい矜持を持たなければなりません．世の中の人をうらやむのは自分の真実のすがたに目覚めることができなかったわけです．聖徒皆さんは自分がいくら驚くべきな変化を着たし幸せな人になったのかを深く悟るように願います．そして使徒パウロのような心情を持って不信者たちを向けて “**私のようになるのを願います**.” という考えを持って行う聖徒になるようにお願いします．